

研究データエコシステム構築事業シンポジウム2024  
研究データ管理をスタートするための最大の課題は？  
Oct. 9, 2024



# 金沢大学における研究データ管理のスタートアップ ～地域拠点の立場から～

金沢大学  
先端科学・社会共創推進機構  
長井 圭治



- 2013/03 : **学術組織間デジタル資料分散共有システム (ARCADE)**  
⇒ GakuNinのSPとして公開：金沢大学における初代のRDM基盤
- 2018/05 : **NII研究データ管理基盤『GakuNin RDM』の機能評価試験に参加**
- 2019/06 : 先端研究基盤共用促進事業（研究機器相互利用ネットワーク導入実証プログラム (SHARE) ）で『GakuNin RDM』と連携を言及 ⇒ 不採択
- 2020/04 : **先端研究基盤共用促進事業 (コアファシリティ構築支援プログラム)**  
⇒ **データマネジメント基盤の構築を柱に挙げる ⇒ 採択**
- 2020/06 : **RDM構築に関する調査・検討を開始** ⇒ 総合技術部と学術メディア創成センターの有志
- 2020/11 : **研究基盤統括本部設置**
- 2020/12 : **RDM構築WG発足(学術メディア基盤センター内の組織)**  
⇒ 総合技術部と学術メディア創成センターの双方からメンバーで構成
- 2020/12 : **金沢大学学術データ管理システム (ARCADE2) 試行版が完成** ⇒ コアユーザで試行開始
- 2021/11 : **データマネジメントポリシー策定WG発足(医学系からWG座長、メンバーは全学)**  
⇒ 部局を跨いだ議論と理事・学長との共有
- 2022/03 : **金沢大学学術データマネジメントポリシー制定 ⇒ ARCADE2 全学試行開始**
- 2023/01 : **コアファシリティ構築支援プログラム 中間評価 S評定**
- 2023/08 : **共同利用設備とARCADE2の連携 (NIIユースケース創出課題)**
- 2023/09 : **NIIから「スタートアップ支援事業」に採択**
- 2024/07 : **オープンアクセス加速化事業に福井大学、金沢医科大学と共同で採択**
- 2024/07 : **金沢大学学術データマネジメントポリシー改訂** ⇒ 再び部局を跨いだ議論と理事・学長との共有<sup>2</sup>

# 普及を促進する駆動力: コアファシリティ構築支援プログラムの「7戦略」

金沢大学 研究基盤統括本部

## 施設・共用設備・ルール・人材・データを全学一元化

大学改革推進委員会  
(統括: 学長) **Check**

理事 (研究担当)

学長補佐 (研究力強化担当)

エビデンス提示

**Plan**

**Do** 総合技術部

研究基盤統括本部運営委員会

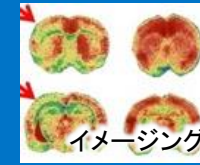
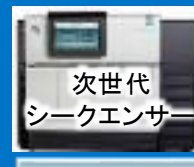
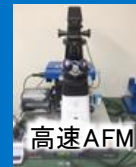
分析

**Action**

戦略立案・融合研究推進部門  
教員・URA・技術職員  
産学連携コーディネータ

基盤設備共用・機器分析  
受託プラットフォーム

ライフサイエンス  
プラットフォーム



研究教育支援・技術開発部門  
技術職員・技術補佐員

配置

Society 5.0に対応した  
新しい研究支援

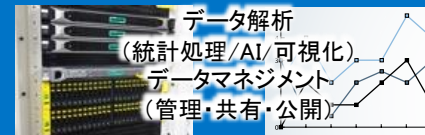
人材育成部門  
教員・技術職員・技術補佐員

トップダウンで追加 事業前倒し実施

環境・安全衛生・廃棄物管理部門  
教員・技術職員

ものづくり受託  
プラットフォーム

データマネジメント・ビッグデータ  
解析受託プラットフォーム



運用開始

事務部連携

人事課

財務部

学内研究支援組織・共同利用施設をプラットフォームに統合

設備利用  
ユニット

受託サービス

オンラインシステムから抽出した  
設備共同利用にかかる各種データ

データ  
ストレージ

金沢大学  
学術データ管理基盤システム

# 旧ポリシーの存在によって見えた改訂の必要性

金沢大学学術データマネジメントポリシー

研究基盤統括本部  
令和4年3月11日制定

(目的)

1. 金沢大学（以下「本学」という。）は、金沢大学憲章に基づき、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、真理の探究に関わる基礎研究から技術に直結する実践研究までの卓越した知の創造に努め、それらにより新たな学術分野を開拓し、技術移転や産業の創出等を図ることで積極的に社会に還元することを理念としている。

本学は、研究と教育に関する学術活動によって産み出された知的成果を蓄積し、適切に管理・保存し、それを社会に還元することで、上記の理念を具現化するとともに、本学の将来の学術活動を守るため、その指針として金沢大学学術データマネジメントの原則を定める。

(学術データの定義)

2. 本ポリシーが対象とする「学術データ」は、本学における研究と教育に関する活動を通じて収集又は生成されたデータをいう。

(学術データの管理等)

3. 学術データの管理、公開及び利活用の方法は、それを収集又は生成した者が、法令及び本学の規程その他これに準ずるものの範囲内並びに他の者の権利及び法的利益を害さない範囲内において、決定することができる。

(大学構成員の責務)

4. 本学において研究・教育活動を主体的に担う者（以下「大学構成員」という。）は、学術データを適切に管理・保存すること、すなわち学術データ管理は、優れた研究・教育を行う上で必要不可欠であると認識し、前項に掲げる範囲内において、学術データを適切に管理し、可能な限りそれを公開し、利活用に供する。

(大学の責務)

5. 本学は、学術データの管理並びに公開及び利活用を支援する環境を大学構成員に提供するものとする。

(その他)

6. 社会や学術状況の変化に応じて、適宜本ポリシーの見直しを行うものとする。

オープン  
サイエンス

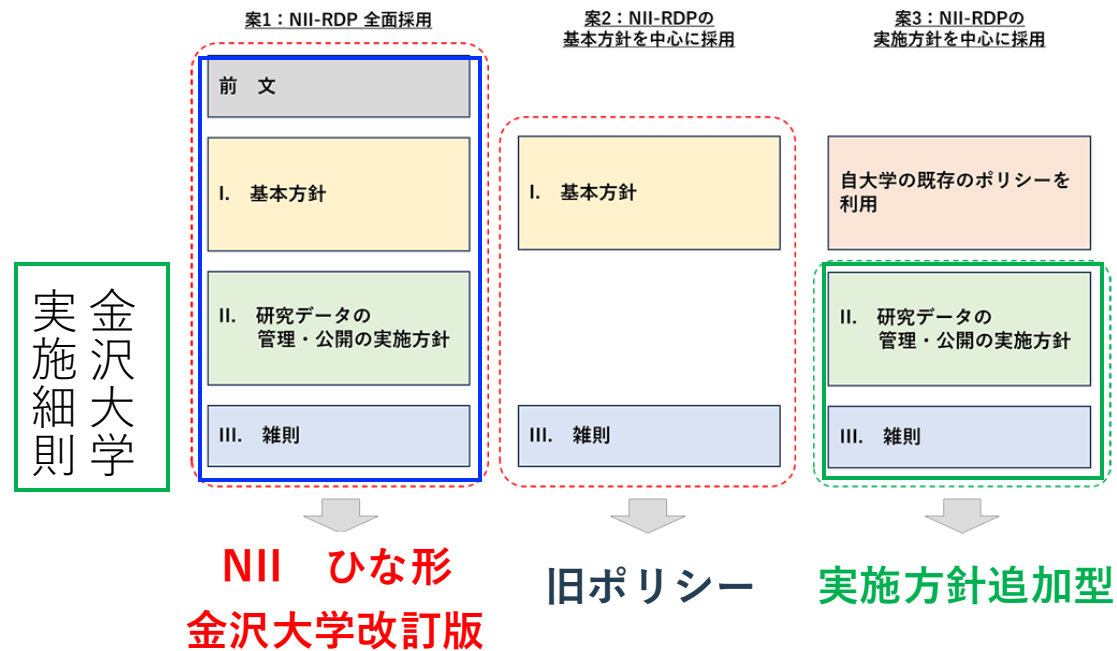
学術(研究)  
データの定義

研究データ  
の管理

研究者の責務

大学の責務

見直し



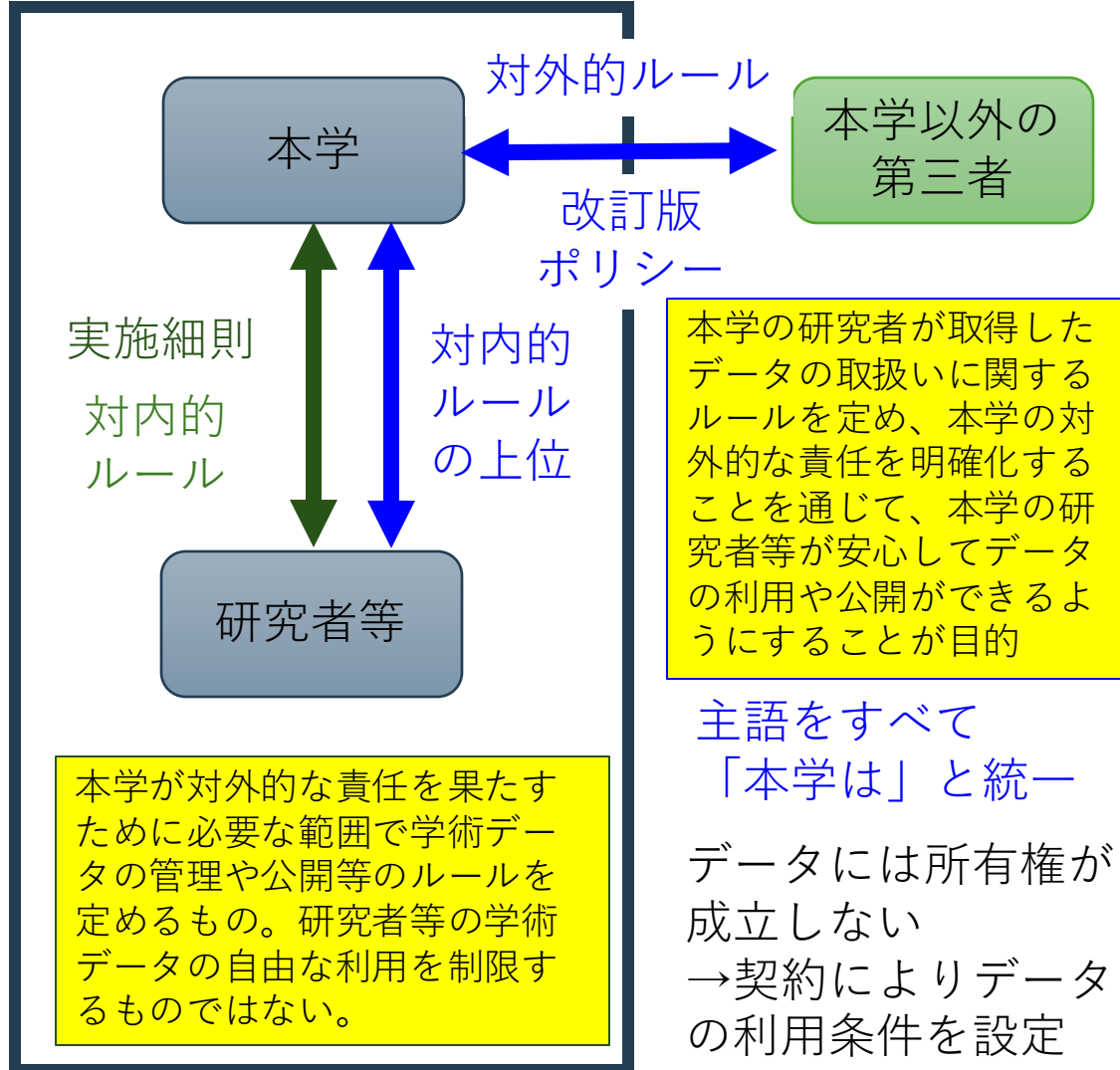
ポリシーは憲法

改訂に際しては、NII雛形を取り入れつつ、法的観点から整備

ガイドラインでは、「ポリシーと実施細則をわかりやすく説明」(他大学と位置付けが異なる)



データの取扱いについての責任を負うのは本学



<https://www.rdm.kanazawa-u.ac.jp/document/>

2024.7.5 改訂

金沢大学学術データマネジメントポリシー

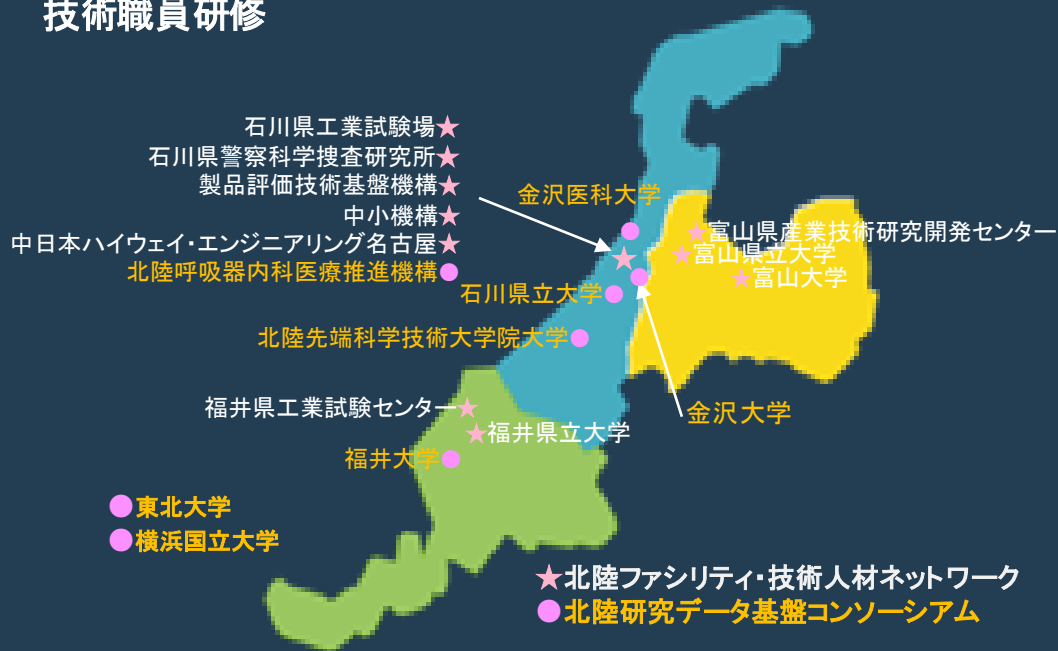
研究基盤統括本部  
情報戦略本部

金沢大学（以下「本学」という。）は、金沢大学憲章に基づき、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、真理の探究に関わる基礎研究から技術に直結する実践研究までの卓越した知の創造に努め、それらにより新たな学術分野を開拓し、技術移転や産業の創出等を図ることで積極的に社会に還元することを理念としている。

- ・全22条、7ページ
- ・法的な問題を解消
  - 1)大学の責任(主語を「大学」で統一)
  - 2)データ公開の観点  
⇒学術論文、学会発表以外は「分譲委員会」に諮問
  - 3)データソースの把握(違法なデータ取得を排除)  
⇒転出、退職、共同研究などのデータのやり取りを規定
- ・今後詳細は「実施細則」で規定  
「ガイドライン」はポリシーと実施細則の説明

## 北陸ファシリティ・技術人材ネットワーク(コアファシリティ事業)

ファシリティデータベース  
技術者データベース  
技術職員研修



## 北陸研究データ基盤コンソーシアム(スタートアップ事業)

研究データポリシー策定支援  
オープンアクセス加速化事業の成果共有  
研究データエコシステム構築に関する活動  
FD研修

入会ご希望は

[rdm-hokuriku@ml.Kanazawa-u.ac.jp](mailto:rdm-hokuriku@ml.Kanazawa-u.ac.jp)

設備共同利用で培った地域ネットワークを土台に

設備共同利用ネットワークの試行錯誤から、

- ・国立大学 ⇒情報交換 お互いの強みを活かす
  - ・公立、私立大学 ⇒主に基盤ユーザとして
  - ・公設試 ⇒大学と相補的 目的指向
- 各機関がそれぞれに進めた強みを地域内に展開

北陸研究データ基盤コンソーシアムでは、

- ・同様の方針を念頭に置きつつ
- ・周知活動からスタート
  - 2024.2 第1回セミナー  
GakuNIN RDM、OA加速化事業の紹介
  - 2024.7 第2回セミナー  
北陸地域ポリシー例の紹介、法的問題点の整理
- ・OA加速事業の共同申請 2024.5
- ・採択機関の情報交換 2024.7
- ・大学コンソーシアム石川におけるFD研修 2024.11.20 予定

ケーススタディ「研究データエコシステム × 地域資料の保存・継承」～災害を乗り越え地域資料継承に貢献する研究データエコシステムの未来～ 情報知識学フォーラム@金沢 2024.11.30

## 金沢大学のOA加速化事業実施計画

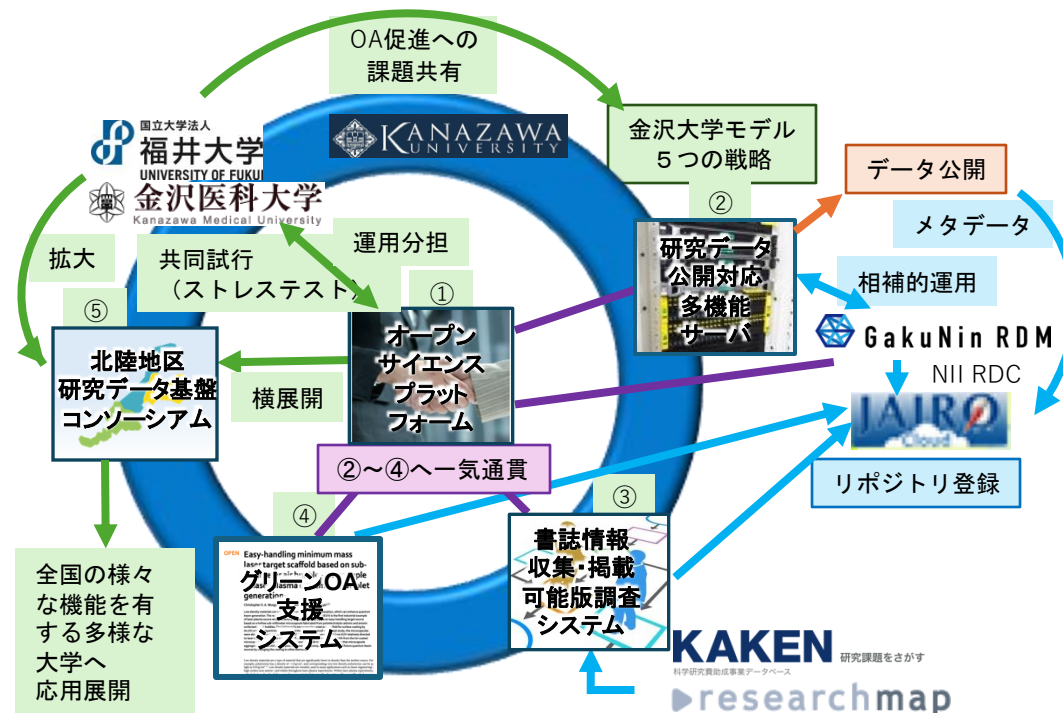
根拠データの公開を含む即時OA加速を進めるため、以下の①～④の新システムを構築し、人員再配置を含む運用準備を進める。また、連携機関に新システムを展開する。ゴールドOA支援も実施する。更に他の採択機関とのノウハウの共有による効率化も図る。

① 「オープンサイエンスプラットフォーム」の構築（以下の②～④と既存のリポジトリ登録システムをまとめ、研究者を一気通貫に支援するワンストップ窓口）

② 「研究データ公開対応多機能サーバ」の構築（GakuNin RDMで対応できない制限公開やビッグデータの公開）

③ 「論文書誌情報自動収集・掲載可能版調査システム」の構築

④ 「グリーンOA支援システム」の構築（③と一体的に即時OA促進システムを構成。）



北陸研究データ基盤コンソーシアム(スタートアップ事業)を通して、システム・運用ノウハウを地域内外へ展開予定(エコシステム化へ)